

土浦市沖宿町の歴史完結編

「僕がいま生きているということ」

土浦五中 八年 山口 優一



子ども郷土研究は、調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、郷土「ちうら」への理解を深めることを目的に実施しています。今回は最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。(一部省略)

◎上高津貝塚ふるさと歴史の広場で展示しています。

一、研究の動機

僕は五年前から、僕の住んでいる沖宿町の歴史について調べてきました。しかし、昨年までの研究をしてきて「本に書いてあることをただままと

④聞きとり

⑤沖宿町に残る手がかりを探す

⑥写真や文章を搜索

⑦他の地区と比較

三、研究の内容・調査結果

【第一章】 沖宿町について

めただけだ!」と、思いました。僕が今年研究したいことは、「本に書いていないもっと深い歴史」。この沖宿町で生きてきた人達は、どんな暮らし、どんな思いで生活していたのか、その頃の沖宿町の姿は、どんなものだったのか、昔の沖宿町の人々が生きた証を探したいと思いました。

沖宿町は土浦市の最東部にあり、北をおおつ野、東をかすみがうら市戸崎、西を田村町、南は霞ヶ浦に接します。主要産業は蓮根です。そして、僕が生まれたふるさとです。

【第二章】 古代の人々

- ①先祖について戸籍調査
- ②家紋から得られる情報
- ③文献から探す

古代の人々は、谷津田と呼ばれる周辺にムラをつくり、生活していました。縄文時代には沖宿貝塚、奈良・平安時代には田村・沖宿遺跡群、鎌

倉・室町時代には入ノ上遺跡があります。

【第三章】 (省略)

【第四章】 港町沖宿・小田氏の時代

・武士の世、中世：鎌倉時代中期、沖宿町は莊園になりま

【第五章】 江戸時代の人々

研究の方法③、④で見つかったのが、「村明細帳」です。これは村の名主が藩に対して、自らの村の状況について藩に報告した文書で、現在残っているのはその控えです。

・沖宿町の領主：安土桃山時代後期は、土浦城を所領においた、結城秀康の領地となりました。江戸時代になると、常に土浦城主の所領となります。

・水害との戦い：沖宿町は霞ヶ浦沿いにあるため水害の影響を受けました。年貢の推移から見ると単純に、四年に一度は大きな水害があった計算になります。

・漁業で発展：水害にあう場所ですが、人々はこの場所に住んだことで漁業をすることができました。霞ヶ浦四十八津の中にも入っており、当時大きな港であったことがわかります。

・人々の信仰：享保六年の指出帳、明治二年の村明細帳に、当時の神社についての記録があります。「正一位鹿島明神」は沖宿町の村社の鹿島神社のことです。現在もその姿を残しています。「正八幡大神」、「小森大神」は現在鹿島神社の摂

社で、神社があった大きな林は姿を残しています。寺を見てみると、神宮寺、東光院、吉祥院、専養院、地福院、威徳院は廃寺になっていきます。専養院は折戸にあっていまだに現在残る阿弥陀堂も管理下でした。その他の寺は特定できず、現在残る寺は海蔵寺のみとなります。

・馬頭観世音：明治期、享保期どちらの文書にも登場する「観音堂」は、馬頭観世音をまつるお堂です。現在この周りは荒れはて、劣化が進んでいます。町内にはいくつも馬頭観世音の石碑が残っており、観音信仰が盛んだったことがわかります。



▲大正期 土浦高等女学校の遠足(観音堂)

・助郷：明治期の村明細帳に、助郷という記述があります。これは、水戸街道の宿場

の周辺の村がそこに馬を送るなどして、補助をするというもの。明治二年には「馬五十四疋」とあり、多くの馬が沖宿町にいたことも関係しているのではないかと思います。

【第六章】 激動の時代を生きた人々

・太平洋戦争と沖宿町：昭和十五年に上大津村の人々は武運を祈願して鹿島神宮・香取神宮に参拝した時の写真が家に残っていました。



▲昭和15年 武運長久を祈念して参拝

当時、夏は米、大豆、さつまいも、じゃがいもなど、冬は大麦や小麦を生産していました。沖宿町からも戦地に派遣され、戦争によって命を落とした方もいたようです。この時代は人々にとって辛く悲しい時代であったことを強く

感じ、二度と繰り返してはいけない時代だと思いました。

【第七章】 戦後から現在の沖宿町

・漁業の衰退：昭和初期の沖宿町前の商店街は、漁業が栄え、霞ヶ浦の乗合船など、人通りが絶え間なかったといえます。しかし昭和四〇年頃、トロール漁解禁により漁業、商業は衰退しました。

・新しい農業「蓮根」とおおつ野誕生：昭和四〇年代頃から、国の減反政策や麦、養蚕などが衰退傾向にあり、蓮根に切りかえる農家が増加したことにより、北部の台地で耕作放棄地が増加しました。平成二年、大規模な区画整理工事が始まり、遺跡の発掘調査も行われ、その調査で沖宿町をつくってきた人々の生きた証である膨大な遺跡が発見されました。平成十年九月に「おおつ野」が誕生し、平成二十八年には土浦協同病院移転など、目まぐるしい発展をとげています。おおつ野が分離した沖宿町は、多くの人が暮らしています。そして人と人とのつながりがあるとても温かい町だと思います。

四、研究のまとめ

今回のテーマは、本には書いていない沖宿町の人々が生きてきた証について、自分の先祖や古文書を調べ、今までもふれていなかった戦争についても調べた研究となりました。僕がいま生きているということ、それはこの沖宿町で必死になって様々な時代を生きてきた人々がいたからこそ自分があるということだと思います。特にこの研究では、人々の細かな暮らしを知るこ

とができたと感じます。そしてこれから創っていくのは自分達の番です。人々の生きた証に触れることができた研究だったと思います。

五、五年間を振り返って

平成二十六年、第一回の研究は、その前年に亡くなった僕の祖父が大事にしていた「年中行事」を柱に研究をしました。翌年、翌々年は、沖宿町の遺跡を柱に、昨年は名字について調べてきました。五

年間僕は自分のふるさとについて調べてきました。皆さんにとって「ふるさと」とは何ですか？僕は、かけがえのないいつまでも大事にしたい場所だと思っています。僕の「ふるさと」沖宿町。そのふるさとをいつまでも大事にしたいと思っています。最後に、この研究にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

第42回子ども郷土研究入賞作品一覧

最優秀賞

土浦市沖宿町の歴史 完結編 ～僕がいま生きているということ～	土浦五中	8年	山口 優一
-----------------------------------	------	----	-------

優秀賞

未来へ続け！心おどる土浦祇園祭	土浦小	5年	木村 美友
土浦市のまちを災害から守るために ～土浦市の水害を救った色川三郎兵衛～	都和小	4年	石川 久瑠美
戦争の時代の土浦ロシア関係と忠魂碑の謎 ～シベリア出兵から百年、二十一世紀に友好関係を築くために～	土浦二小	6年	関谷 譲
戦時中の田村 ～今、よみがえる～	土浦五中	7年	鶴田 真世

優良賞

むかしのつちうらし	東小	1年	小野 愛歩
土屋藩の知恵と工夫 一時代を越えた政治の仕方一	土浦一中	8年	菊地 郁帆 栗原 佐和
土浦市のレンコン	土浦五中	7年	石川 健太郎
おおつ野誕生までの道のり	土浦五中	7年	小出石 君帆

努力賞

土浦の花火	荒川沖小	6年 4年	佐野 耀太郎 佐野 柚穂
全国第二位霞ヶ浦！	土浦一中	8年	横山 梨月 早坂 美波
矢作の三つの神社の歴史	土浦一中	8年	大塚 悠暉
亀の甲羅を持つ土浦城の謎	土浦一中	8年	山崎 偉弘 山崎 智弘
鹿島神社の歴史	土浦五中	8年	羽生 龍斗
奈良・平安時代の土浦	土浦五中	7年	和智 美咲

学校賞／土浦第五中学校